

沖縄から平和を考える

—ウチナーとヤマトの懸け橋に

特別展示 首里城と沖縄戦

2026年

5月5日火～7月4日土

開館時間 ● 11:00～16:00
(最終日は15:00まで)

休館日 ● 日曜日・月曜日

入館料 ● 大人300円 小中高生100円

会場 ● 3階 展示室
2階 プチギャラリー
映像コーナー

中国の海洋進出や台湾有事を念頭に、政府は南西諸島で自衛隊の体制を強化する方針です。このような状況は島の安全を脅かし、沖縄の人々の分断を深めることにならないでしょうか。現在に至るまでの沖縄の歴史を振り返り、考えたいと思います。

今年の特別展示では「首里城と沖縄戦」を取り上げます。今秋、正殿が公開される予定の首里城の地下には、第32軍司令部豪が構築されており、沖縄戦における重要な歴史的遺構として、その保存と公開が進められています。今後の首里城再建に向け、近代以降の首里城についての理解を深めます。

1 幕藩体制に組み込まれる琉球王国

琉球諸島は古くから周辺国家の支配を受けることなく、1429年に尚氏による統一王朝が成立した頃から、海外交易の盛んな独立国「琉球国」として繁栄しました。中国皇帝に物品を献上すること（進貢）で、琉球王であることを承認（冊封）され、初めて国交できるという朝貢貿易^{※1}や、東南アジア各地と日本・朝鮮などを結ぶ中継貿易で多大な富を得て、独特の文化を育みました。

1609（慶長14）年、この貿易に着目した薩摩藩の島津氏が武力をもって琉球を征服し支配下に置きました。米・芭蕉布・砂糖などを年貢として取り立て、また中国との貿易を継続させてその利益を奪いました。そんな中でも、琉球王国は薩摩の策略で中国との冊封関係を維持する一方で、薩摩藩と琉球王朝による二重の年貢が発生して琉球住民は貧困にあえぐようになりました。



唐船回（沖縄県立図書館蔵）

※1 【冊封】 皇帝の言葉を「冊」、土地を与えて諸侯に任命することを「封」といった。そのせしめには中国の冊封使節団約400人が半年ほど琉球に滞在した。琉球王朝は彼らをもてなそうと、舞踏や音楽など芸能を披露し発展させた。


※2 【朝貢貿易】 琉球から中国皇帝に日本・琉球・東南アジアの産物が贈られ、得りは中国の産物を持ち帰った。

1 「捨て石」として — 第32軍の新設

1941（昭和16）年12月8日、日本軍がイギリス領のマレー半島コタバルに上陸して戦闘開始、日本海軍がハワイの真珠湾を奇襲攻撃、その直後にアメリカ・イギリスに宣戦布告して、アジア・太平洋戦争が始まりました。その半年後、日本軍はミッドウェー海戦で大敗し、以降、アジアや太平洋の各地で敗北して、戦線が日本本土に向かって北上しつづりました。

1944年3月、日本軍は「本土防衛」の最前線として、中国にいた兵士を寄せ集めて「第32軍（南西諸島守備軍）」を新設します。第32軍は、本土防衛の防波堤として沖縄全島を要塞化するという方針のもと、沖縄の人々を国民学校の児童に至るまで根こそぎ動員して陣地と飛行場の建設を急ぎました。飛行場用地に指定された私有地は国有地とされ、代金は強制徴収にまわされました。国債で支払われたりしました。

日本軍にとって、最大の関心事は「国体（天皇帝）の護持」でした。沖縄の人々は、そのための「捨て石」となることを強いられたのです。



1945年2月、米軍の上陸を前に撮影した日本軍第32軍の集合写真
(1 大田東洋中將、2 年島清第32軍司令部、3 長勇第32軍参謀長、4 金山均歩兵第89連隊長、5 北郷昭第32連隊長、6 八原博通高参謀) (沖縄県公文書館提供)

関連展示
詳細裏面

- ◆2階プチギャラリー 「沖縄の基地問題は私たちの問題」
- ◆2階映像コーナー 沖縄戦体験者の証言映像

関連イベント 映画と解説

《《 入館料で参加できます 》》

- 日時：5月16日(土) 13:30～16:00
- 映画：太陽(ティダ)の運命
ドキュメンタリー映画 (129分)
- 解説：阪井芳貴さん
名古屋市立大学名誉教授

任期中、県民から厚く支持された沖縄県知事の太田昌秀(第4代)と翁長雄志(第7代)の物語。2人は政治的には正反対の立場であったが、沖縄を代表する立場として民主主義や地方自治のあり方を訴え続け、革新的な県政で数々の業績を残していった…。

※上映会終了後、沖縄展を観覧できます。
16:30まで

定員50名、要予約 電話052-602-4222



ティダ、それは太陽を意味し、その昔「リーダー」を表す言葉だった

第4代沖縄県知事 1990～1998 大田 昌秀

第7代沖縄県知事 2010～2018 翁長 雄志


佐古忠彦 監督作品

太陽の運命

平和を追い求め、理不尽に抗い、信念に生きた二人の男— その熱き闘いの記録

講演会

- 6月20日(土) 13:30～15:30
- 講演：當山菊子さん
沖縄糸数アブチラガマガイド
- 沖縄戦から伝えたいこと — 平和の大切さ



沖縄県南城市にある沖縄戦の避難壕「糸数アブチラガマ」で、平和ガイドとしてガマの歴史や戦争の悲惨さを伝えている。

[博物館相当施設] 戦争と平和の資料館 **ピースあいち**

〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820
TEL&FAX 052-602-4222

市バス・地下鉄でのおでかけが便利でお得です!
ドニチエコきっぷ・一日乗車券・24時間券を利用してご来館の方は、入館料割引!

【大人】300円→250円 【小中高生】100円→80円

※「ドニチエコきっぷ」「一日乗車券」「24時間券」の利用範囲は、交通局ウェブサイトをご覧ください。
※他の割引・サービスとの併用はできません。



ご利用開始後の有効期限内のドニチエコきっぷ等の一日乗車券・24時間券を提示するだけで、名古屋市内の施設・飲食店等で割引等の特典が受けられます!

※詳細は地下鉄駅で配布している特典ガイドブック「なごや得ナビ」をご覧ください。(管理～6/15)



1Day 大人 620円
1Day 小中高生 480円
24時間券 大人 870円
24時間券 小中高生 680円

3階展示室 特別展示 首里城と沖縄戦 《戦争遺跡としての首里城》

首里城は、琉球王朝文化の象徴的な存在として沖縄観光の目玉ですが、実は、きわめて重要な戦争遺跡でもあります。今秋の再建公開に向け、戦争遺跡としての首里城に焦点を当てます。

(左) 戦前の首里城と
(右) 修復中の首里城大屋根
(撮影2025年5月9日)



展示パネル

- ① 首里城の歴史
- ② いくさとグスク
- ③ 日本軍と首里城—第32軍司令部壕
- ④ 戦火に失われた琉球王朝文化
- ⑤ 首里城炎上と再建
- ⑥ 第32軍司令部壕の保存と公開

2階プチギャラリー 「沖縄の基地問題は私たちの問題」

2階映像コーナー 沖縄戦体験者の証言映像

戦世の記憶
「ありったけの地獄をあつめた」沖縄戦体験者8名が証言する様々な地獄
(沖縄県平和祈念資料館提供)

夏の戦争体験を聴くシリーズ 8月1日(土)~8月15日(土) (日曜・月曜のぞく11回) 14:00~15:00
ピースあいち1階 交流のひろば

ピースあいち戦争体験を語り継ぐ会員によるお話。詳細はピースあいちHP、X(旧ツイッター)でご確認ください。

ピースあいちの常設展 **常設展示が英語でも読めるようになりました。**

- 第1展示 愛知県下の空襲 …… 愛知県下にも空襲があった。多くの家が焼かれ、多くの人が死んだ。
- 第2展示 戦争の全体像・15年戦争 …… 戦争はなぜ起きたか。どういった経過をたどり、結果を迎えたか。
- 第3展示 戦時下の暮らし …… お父さんやお兄さんが兵隊に征った。食べ物や着るものがなくなった。自由にもが言えなくなった。
- 第4展示 現代の戦争と平和 …… 今も戦争はなくなっていない。だが、平和を求めて多くの人ががんばっている。
- 「命の壁」 戦争は命の破壊。どうか目をそらさないでください。
- 準常設展示 戦争と動物たち



[博物館相当施設]
戦争と平和の資料館

ピースあいち

○ 開館時間 11:00~16:00
○ 休館日 日曜、月曜
○ 入館料 大人300円 小中高生100円
〒465-0091名古屋市中区東区よもぎ台2-820
TEL&FAX 052-602-4222
<https://peace-aichi.com/>



- ▶ 地下鉄東山線「一社」①出口から北へ徒歩12分
- ▶ 地下鉄東山線「上社」から市バス上社11系統「じあみ」下車、西へ徒歩3分
- ▶ 駐車場(有料(300円)2台)(障がい者用無料1台)